

めざす学校像・子ども像・教員像	課題	今後の改善方策
1 めざす学校像・・・生徒と教師が信頼と協調で結ばれ、保護者や地域から信 頼される学校	・朝の帯時間の定着はできてきたが、生徒の実態に応じたプリントを準備する必要がある。	・プリントの両面を使い、生徒が自分の力に応じて、応用問題、基礎問題のいずれかを選択し取り組める工夫をしたり、基礎問題を生徒同士が教え合う活動を通して基礎学力の向上につなげるなど、次年度は工夫したい。
2 めざす子ども像・・・高宮中学校とその地域を愛し、誇りと自信を持ち、自ら考え、 自ら進んで学習や行事の活動に取り組み、向上心と志を大 切に成長しようと努力し続ける生徒	・不登校生徒の復帰率が高まり、教室に多いときで15名程度来室しているため、教室環境を再度考える必要がある。	・生徒の実情に応じて、養護教諭とのカウンセリング機能を高め、ステップルーム利用と、保健室利用の二面性を用い保健室と連携した取り組みを進める。
3 めざす教員像・・・公務員として自覚と高い倫理観、教育者としての情熱と強い 使命感を持つ集団	・各学年、生徒のリーダーを活用した集団づくりを進めていることから、生徒の自主的な活動が増えている。	・週5時間の日を2日設けることで、生徒も落ち着いて活動できる時間が確保できた。次年度は、いじめ撲滅委員会、班長会、専門委員会等の関連付けを考 えて会議日や活動日を設定する。

重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明
「学ぶ楽しさをはぐくみ、思考力や表現力を高める学習指導のあり方」の実践と学力の二極化解消に向けた取組を実践する。	国語、数学、社会、理科、英語科において、基礎学力向上を図る取組を朝帯時間に実施する。	・5教科について、年間指導計画に基づき、計画的に朝の帯時間で実施することができた。 ・生徒アンケートから「夢に向かってチャレンジする」という項目や、保護者アンケートから「夢を育む教育の実施」という項目で、肯定的な意見が6割程度にとどまったため、次年度の課題の柱に位置づけ取り組みを進める。 ・2学期に全職員が、「思考力・表現力を高めるアクティブラーニング」の研究授業を実施し、授業後の意見交流や研修を深める研修会を実施した。 ・生徒アンケートから、全ての教科で「授業がわかる」「意欲的に取り組む」70%以上の回答を得た。
	総合的な学習の時間の体験活動で、生徒アンケートから肯定的な回答を80%以上にする。	
	全職員による「思考力・表現力を高めるアクティブラーニング」の研究授業を2学期に実施する。 生徒アンケートで、「授業がわかる」「意欲的に取り組む」と回答する生徒を70%以上にする。	
不登校生徒の減少といじめ防止に向けた取組を実践する。	不登校対応教員を核とした関係機関と連携したネットワーク会議を月1回実施する。	・毎月1回関係機関と連携したネットワーク会議を実施し、情報交換、具体的な支援を進めることができた。関係機関からも次年度会議の継続要請があり、次年度も継続して行いたい。 ・心の教室をステップルームとして再整備し、5教科で10時間について時間割を作成し授業を実施した。生徒も心のびのびとした環境で、全年度より「利用しやすい」という意見を得た。 ・夏季研修会で、Q-Uテストの分析方法と活用法について専門知識をもつ講師から研修を受け、支援を必要とする生徒の理解と、支援方策を講じ具体的な支援を行った。 ・生徒アンケートから前年とほぼ同じ結果を得た。次年度、行事活動でエンカウンターを通して自尊感情を高めたい。
	ステップルームの教室整備と、時間割を作成し、不登校登校生徒が利用しやすい環境整備をする。	
	Q-Uテストを全学年で実施し、要支援生徒の把握と職員全員による研修会を実施する。 生徒アンケートにおいて、自尊感情・規範意識の項目で肯定的な回答をする割合が前年を上回る。	
生き生きとした自治活動のできる生徒を育成する取り組みを実践する。	生徒会活動を中心に、生徒自らの力で行事を創る力を育てる。生徒アンケートから肯定的な回答を80%以上にする。	・朝の挨拶運動、遅刻ゼロに向けた取組など、新生徒会を中心に取り組みが活発となった。 ・学級委員長や行事活動の実行委員長を中心に、生徒が司会進行を進める活動が取り組めた。特に、2年生では、修学旅行で、全学年で体育会、学校コンクール等の実行委員会活動で生徒の積極的な取組ができた。 ・班長会、いじめ撲滅委員会が、毎月一回生徒主導で活動することができた。いじめ撲滅フォーラムでは、いじめ撲滅につながる劇を行い、内容ある取組ができた。 ・行事に併せて、特別活動委員会(教員の委員会)で活動内容を確認し、計画的に実施することができた。
	学期に1回、生徒が中心となって運営する学年集会を実施する。	
	班長会、いじめ撲滅委員会等、生徒が意欲的、積極的に活動する取り組みを毎月1回実施する。 エンカウンター取り入れた学級活動を学期に3回以上実施し、学級集団づくりを行う。	

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

◇学校が行った生徒アンケート、保護者アンケート結果を説明し、今年度の取り組みについて学校関係者から評価と意見・要望・改善に向けた提言をいただいた。  
○学級目標、生徒作品など教室環境や廊下の掲示物など整理整頓され、生徒が学習しやすい環境が整っている。  
○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードや、デジタルタイマーなど授業で使用するのが、どの教室にも整備され授業で使用されており、次期学習指導要領を見据えたアクティブラーニング等を取り入れた授業研究や準備が進んでいる。  
○服装が整い、素晴らしく挨拶をする生徒がたくさんいる。校区で安全指導をしている時、生徒に学校の様子など聞いても気持ちよい返事を返してくれる。  
○校区行事等、生徒が積極的に活動してくれ大変助かっている。今後とも、様々な校区行事で生徒の力を貸して欲しい。  
○全体的に厳しめな評価となっている。評価委員から見ても、学校はかなり努力して学校を運営し成果を出しているのので、評価を1ポイント上げてよいと考える。今後とも、子どもたちのためにがんばって欲しい。